

令和 7 年度

人間生活学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント
小論文（一般）

令和 7 年 1 月 11 日

高知県立大学大学院

小論文（一般）

設問は3問あります。この3問の中から1問を選択し、解答しなさい。

(200点)

問1 栄養とは、生物が外界から食物を得て、成長、また生命活動を維持する営みのことであり、この生命維持に必須の物質を栄養素とよぶ。一般的に、食物は栄養素を1つ以上含み、安全であることを前提とするが、摂取する者の遺伝的背景や状態により害をなす場合もある。その代表的なものとして食物アレルギーが挙げられる。

食物アレルギーについて、その発症機序および発症予防への対策を、説明しなさい。

【出題の意図】

近年、食物アレルギーは、日本において発生件数が増加しており、問題となっている。特に、食物によるアナフィラキシーは発症者を死に至らしめることもあるため、栄養・生活学領域を志望する者には、基本的な専門知識は携えておいてもらいたい。本問題では、食物アレルギーに関する知識や理解について問うとともに、発症予防への対策に関する知識、論理的な思考力、文章表現力などを問うものである。

【解答のポイント】

1. 食物アレルギー及びその発症機序について、基本的な部分を説明していること。
2. 食物アレルギー発症予防について、1の記述もふまえて論理的に説明していること。

問2 2023年4月に、「こども家庭庁」が発足した。名称に「家庭」が含まれることになった背景には、伝統的な家族観への期待と同時にその捉え方への問題提起があるともいわれている。こうした中、家族よりも個人を優先する「家族の個人化」や、子育てや介護の外部化が進む「ケアの社会化」などを背景にした家族の多様化の現状を踏まえ、今後求められている施策や実践について、あなたの考えを述べなさい。児童・家庭福祉、高齢者福祉、地域福祉など特定の分野から論じてよい。

【出題の意図】

子どもに関する政策や支援は内閣府、文部科学省、厚生労働省など複数の省庁にまたがる各分野の横断的な課題である。それゆえの課題もあることから、こども家庭庁が設置されたという背景もある。これらの課題の対策についての考察力を問う。また、論理的に記述する能力、文章表現力、知識の応用などを問うものである。

【解答のポイント】

1. 少子化の背景について、基本的な知識を有し、かつ論理的な説明がなされていること。
2. 地域社会へのアプローチも含め、子どもと家庭を取り巻く現状から、総合的な課題解決に向けた提案がなされていること。
3. 子どもの貧困、少子化対策、地域の繋がりなど、自分の専門領域の知見から具体的に論じられていること。

問3 人口減少、温暖化、災害など、課題を多く抱える高知県という地域の文化の今後の発展のために、従来の枠にとらわれない発想を大切にする必要があると思われる。多くの分野に浸透しつつある AI（人工知能）をどのように活用すれば、高知県での生活や文化を豊かにすることが出来るか、具体例をあげて、あなたの考えを述べなさい。

【出題の意図】

高知県が抱える課題の解決策と生活・文化の発展において AI をどのように活用することが出来るかについて、高知県に関する知識、論理的な思考力、文章表現力などを問うものである。

【解答のポイント】

1. 高知県における文化の課題と発展の可能性について把握していること。
2. AI（人工知能）の可能性と限界について論じていること。
3. 具体例をあげ、論理的かつ適切な表現を使って自らの考えを述べていること。